



森林やまがた

No.161

2016.1

山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



目次

新年のごあいさつ……………2
 平成27年度川村造林記念山形県林業賞……………3
 第1回全国「森林ノミクス」サミットin山形を開催…4
 山口英彦氏旭日単光章(林業振興功労)……………5
 鶴岡バイオマス発電所が火入式を開催……………6
 「朝日相扶の森」と「草木の森」絆の森活動……………7
 みどりのページ
 新庄市立北辰小学校のみどりの少年団が全国緑の
 少年団活動発表大会で「みどりの奨励賞」を受賞…8
 森の教室「どんぐりくんと森の仲間たち」を開催…8
 緑の少年団出前教室を開催……………8
 センタートピックス
 燃料用広葉樹材の乾燥特性……………10

森の人紹介

佐藤定四郎さん・北村昭夫さん……………11
 みどりの循環体験イベント……………12
 「大江町美しい森林づくり協議会」の活動紹介……………13
 北村山地域の地域産材活用……………14
 山形が生んだ匠と家づくりを語る……………15
 もがみ地域材利活用研究会の開催について……………16
 最上地域原木ナメコ栽培研修会を開催……………16
 荒尾沢地すべり対策工事概成後の状況……………17
 庄内森とみどりのフェスティバル2015……………18
 山形県の古木・名木、公共木造施設……………19
 平成28年度みどり環境公募事業募集開始のお知らせ…20
 「森林づくりセミナー&活動報告会」開催のお知らせ…20

(表紙写真は、遊学の森主催のミニ門松づくりの様子)



新年のあいさつ

山形県農林水産部

林業振興課長 渡邊 真司

平成二十八年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

皆様には、日ごろ、本県の森林・林業・木材産業の振興に、多大な御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

山形県は、県土面積の約七割に当たる約六十七万ヘクタールの森林を有しており、木材の供給はもとより、水資源の涵養、県土の保全、地球温暖化の防止など産業活動や私たちの暮らしに大きな役割を果たしております。

このような森林の持つ多面的機能を持続的に発揮させ、健全で豊かな森林を次の世代に引き継いでいくには、木を植え、育て、使い、そして再び植えるという「緑の循環システム」による持続可能な森林経営を進めていく必要があります。

このような中で、新庄市の新庄中核工業団地に大型集成材工場の整備が進められているほか、鶴岡市では木質バイオマス発電施設が試運転中であり、さらに各地域でも計画されているなど、県内の木材需要量が大幅に増加すると見込まれています。

こうした動きに対応するためには、木材の安定供給体制の整備が不可欠であり、森林施業の団地化を進めるための森林境界の明確化や森林経営計画の策定促進、高密度な路網整備と高性能林業機械を組み合わせた「低コスト作業システム」の構築、これらを担う人材の育成など、様々な課題の解決に向けた取り組みをしっかりと進めていく必要があります。

県では、こうした取組みの一環として、今年四月から、県立農林大学校に新たに林業経営学科を設置することとしております。既に推薦入試と一般入試の前期試験が終了し、林業経営学科の合格者は十五名となっております。

農林大学校での二年間の修業期間では、林業事業者等への就業に役立つ各種資格や、樹木医補、森林情報士二級などの資格の取得を始め、幅広い分野で活躍できる人材を育成することとしております。

また、昨年十月には、人口減少を克服し、経済成長力を確保するため、「やまがた創生総合戦略」を策定し、特に力を注ぐ「挑みの八策」の一つとして、「やまがた森林ノミクス」の推進を掲げ、重点的に取組んでいくこととしております。

平成二十五年度に知事と全ての市町村長の参加により設立された「やまがた里山サミット」において、本県の豊かな森林資源を「森のエネルギー」「森の恵み」として活かすことにより、林業の振興と地域の活性化につなげていく「やまがた森林ノミクス」宣言でスタートした「森林ノミクス」の取組みは、その後、県内各地で展開されているところですが、昨年の十一月二十七日には、本県の提唱による「第一回全国森林ノミクスサミット」が県内外から約三百五十人の参加者を得て盛大に開催され、その理念や実践の重要性について全国に発信しました。

一方、国の動きとしましては、昨年十月に、TPP協定が日本、米国をはじめとする参加十二カ国間で大筋合意に達し、林業関連においても、合板やSPF製材などの関税が十六年目までに完全撤廃されることになりました。合板等は、樹種特性を活かした用途や価格帯に応じて住み分けられていることなどから、本県への直接的な影響がすぐに出てくる可能性は小さいものと分析しているところですが、国では、合板・製材の国際競争力を強化するための補正予算を閣議決定し、原木を安定的に供給するための間伐材の生産及び路網整備を一体的に支援する制度を新設しております。本県でも、この制度を積極的に活用していくため、関係機関と調整を図っているところです。

県といたしましては、「森林ノミクス」による林業・木材産業の振興と中山間地域の活性化等を推進するため、関係者の皆様と連携しながら、川上から川下までの総合的な取組みを積極的に進めるとともに、「緑の循環システム」をしっかりと構築し、交流人口の拡大や雇用の創出、人材育成など関連する施策を総合的に展開していくために、その道標となる条例の制定も視野に入れて、多方面から広く御意見を聞きながら、検討を進めてまいりたいと考えておりますので、皆様方の御支援をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本県の森林・林業・木材産業の益々の発展と、皆様の御健勝を心から祈念申し上げます。新年の御挨拶といたします。〔県林業振興課〕

佐藤重夫氏・株式会社庄司製材所が受賞

川村造林記念山形県林業賞は、本県の第二十三代知事、川村貞四郎氏が寄贈された山林を基金として、本県の民有林業の振興・発展に貢献した個人及び団体を対象に表彰しているもので、昭和三十九年に創設されました。本賞は本県林業会における最高の賞で、昭和四十年の第一回表彰以来、本年度までに受賞された方の数は、個人五十四名、四十七団体となっています。

森林・林業・木材産業、及び山村の振興において、積極的かつ計画的な活動等により、他の模範となる功績のあった方々を市町村長から推薦していただき、県の表彰審査委員会の審査を経て、決定しています。

本年度は、鶴岡市長から推薦のあった「佐藤重夫氏」と、真室川町長から推薦のあった「株式会社庄司製材所」が受賞されました。

表彰式は、昨年十一月十二日に山形市の山形県郷土館「文翔館」において行なわれ、受賞者の功績を称え、吉村知事から表彰状と記念の盾が授与されました。

◆佐藤重夫氏（鶴岡市山五十川）

昭和六十二年五月から温海町森林組合の理事として九期二十七年の長きにわたり森林組合と地域林業の発展に尽力されました。

特に、平成十七年五月に代表理事に就任し、平成二十六年三月までの間、森林組合の経営再建に尽力されました。また、山に入る機会の少ないサラリーマン向けの林業講座を設けるなど、数々の独創的な事業に着手するとともに、積極的な経営手腕を発揮し、温海町森林組合を県内における先導的な森林組合に変貌させました。

また、間伐材等のフル活用を実践され、森林組合経営の安定化と森林所有者への利益の還元を実現したことにより、集約化施策の効果が組合員に広く理解され、間伐事業の推進に大きく貢献されました。昨年十一月に火入れ式を行った木質バイオマス発電所（鶴岡市下山添地内）の誘致にも尽力され、これまで利用が進まなかった低質材の利用拡大にも大きく貢献されました。

◆株式会社庄司製材所

（真室川町大字大滝）

昭和六十一年三月に有限会社庄司製材所として製材業を開始以来、国内有数の国産材製材工場として長く県内外の木材産業を牽引し、最上地域を中心に製材用原木を仕入れるなど、地域林業の振興に大きく貢献しています。

製材工程で発生する端材等の有効活用のため、他に先駆けて木質バイオマスボイラーを各工場に導入し、人工乾燥材生産のための熱源とするなど、コストの縮減と環境に配慮した先進的な経営を行うとともに、製材端材等をチップ化し、地域の木質バイオマス施設の燃料として供給するなど、最上地域のバイオマス利用の拡大に大きく貢献されています。加えて、きのこの一大産地である最上地域において、栽培用おが屑をきのこ生産者に提供し、地域の特色ある産業発展に寄与されています。また、中学校の廃校跡地の一部を真室川町から買い受け製材工場として整備し、地域産業の振興と町政の課題

解決に大きく協力されています。真室川町に本社と工場、金山町に工場を置き、それらの工場全体で八十名を超える地元住民を雇用しているほか、関連する素材生産業、運送業など、雇用の場の確保に大きく貢献されています。



受賞されました佐藤様、株式会社庄司製材所様に心からお祝いを申し上げますとともに、ますますのご活躍を祈念申し上げます。

〔県林業振興課〕

第一回全国「森林ノミクス」in山形を主催

in山形を主催

十一月二十七日、山形市のホテルメトロポリタン山形を会場に、「第一回全国森林ノミクスサミットin山形」が開催されました。

平成二十五年に、県と全市町村が連携し、地域の豊かな森林資源を「森のエネルギー」「森の恵み」として活かしていく「やまがた森林ノミクス」を宣言しました。林業の振興を図りながら、地域の雇用を創出し、地域活性化に向けて取組みを進めています。

このサミットは、その一環として「森林ノミクス」を県内外に発信し、さらなる林業の振興、地域活性化をねらいとして開催したものです。

会場には当初予定した参加者数を大幅に上回る約三百五十人の方々に参加していただきました。

開会にあたり、主催者を代表して吉村知事のあいさつ（細谷副知事代読）の後、来賓の沖林野庁次長が祝辞を述べられました。

◆第一部 基調講演

第一部では、「里山資本主義」（藻谷浩介ほか共著）で取り上げられて以

来、テレビ番組をはじめ多くのメディアに登場している銘建工業株式会社（岡山県真庭市）の中島浩一郎社長が「森林資源を活かした林業振興」と題して基調講演を行いました。

講演では、地域ぐるみのバイオマス発電に対する取組みや欧米で普及が進み、国産材での製造拠点整備も進むCLTについて、国内における最新の動向が紹介されました。



知事あいさつ（副知事代読）



銘建工業中島社長の基調講演



来賓あいさつ（林野庁 沖次長）



来場者の質問（基調講演）

◆第二部 パネルディスカッション

第二部では「森林資源を活かした地域創生を目指して」と題してパネルディスカッションが行われ、それぞれの取組みのほか、オーストリアと日本の林業の違いや人材育成、今後の本県の林業振興の方向性などについて意見が交わされました。なお、登壇されたのは次の方々です。（敬称略）

コーディネーター 野堀嘉裕（山形大学農学部教授）、パネリスト 佐藤景一郎（山形県森林組合連合会代表理事会長）、渋谷みどり（出羽庄内森林組合森林施業プランナー）、木村一義（株式会社シエルト代表取締役）

締役)、ルイジ・フィノキアロー(オーストリア大使館商務部上席商務官)、中島浩一郎(銘建工業株式会社代表取締役社長)、沖修司(林野庁次長)



コーディネーター(山形大学野堀教授)とパネリストの皆さん

◆会場前では

また、会場前のロビーでは、県内の若手林業者のグループが開発した木を利用したクリスマスカードやアロマテラピーなどの展示が行われ、来場者の関心を集めていました。



会場前ロビーの状況

◆第三部 情報交換会

会場を移して行われた第三部の情報交換会では、講師やパネリストと参加者が直接会話を交わしながら、林業や地域活性化について情報を交換する光景が見られました。

(県林業振興課)

山口英彦氏 旭日单光章(林業振興功労)



小国町森林組合前組合長の山口英彦氏は、平成二十七年秋の叙勲において、「旭日单光章」を受章されました。

氏は、昭和四十七年四月に小国町北部森林組合(同年六月合併により小国町森林組合)に職員として採用されて以来、二十一年の長きにわたり奉職し、その後、常務理事を十二年間、代表理事組合長を九年間務めるなど、森林組合の発展と地域林業の振興に大きく貢献した功績により授与されたものです。

また、山形県森林組合連合会代表理事副会長や財団法人山形県みどり推進機構運営協議会委員などの要職も歴任し、県の森林・林業の発展に寄与されました。小国町においては、消防団活動をはじめ、民生委員や農業委員、小国町体育協会会長、小国地区安全運転

管理者協議会長などの要職に長年にわたり就かれ、地域の活性化にも貢献されました。

◆森林組合における事業展開

常務理事在任中は、林産及び特用林産事業に力を注ぎ、積極的に高性能林業機械を導入してコスト低減による生産性の向上を図ったほか、特産の山菜やきのこを扱う「森のめぐみ直売所」をオープンさせました。

平成十八年に組合長に就任後は、新たな事業展開として木質バイオマスの利用に着目し、平成二十年には「木質チップ製造施設」を建設し、小国町が運営する温水供給施設にチップを供給するなど、時代を先取りした取り組みを実践してきました。現在では、年間約一万三千トンのチップを製造し、組合の売り上げの二割超を占めるまでとなっています。

◆おわりに

このたびの氏の叙勲は、森林・林業関係者にとって大きな励みとなるものです。心よりお祝い申し上げますとともに、氏の御健勝をお祈り申し上げます。

(小国町産業振興課)

本格稼働直前 鶴岡バイオマス発電所が火入式を開催

平成二十七年十一月十六日、鶴岡バイオマス発電所（鶴岡市下山添）が火入式を行い、試験稼働を前に安全を祈願しました。

鶴岡バイオマス発電所は株式会社トーセン（栃木県）、出羽庄内森林組合、温海町森林組合、北庄内森林組合、羽越木材協同組合の出資により設立された(株)鶴岡バイオマスが整備した間伐材等由来の木質バイオマスを主燃料とする小規模木質バイオマス発電施設（出力一、九九五kW）で、地域の森林資源の新たな需要として林業振興による地域の活性化が期待されています。

火入式には、(株)鶴岡バイオマスの東泉清壽代表取締役をはじめ、山本鶴岡市副市長、柴田県環境エネルギー部長、渡邊県林業振興課長など関係者約六〇名が出席し、神事から点火まで厳かに行われました。

神事により安全が祈願された後、松明に火がともされ、(株)鶴岡バイオマスのポイラー技術者がポイラーに点火しました。

その後、施設見学会が行われ、参



神事の状況

加者は普段見ることのできない各設備を熱心に見学していました。このほか、多くのマスコミ関係者が取材に訪れており、県民の関心の高さがうかがわれました。

十二月には試験送電、平成二十八年一月中に本格稼働となる計画で準備が進められています。

燃料となる未利用間伐材等については、羽越木材協同組合が庄内管内を中心に森林組合や素材生産事業者

から供給を受けて約一年半分の原木を確保しており、チップ生産に向けた準備が進んでいます。さらにチップ圧搾機も整備しており、含水率の低い高品質なチップ製造に向けた準備も進められています。

供給側の林業事業者では、未利用間伐材等の需要増大に対応するため、生産体制の強化を図るなど生産拡大の気運も高まっています。

このように小規模木質バイオマス発電は地域分散型のエネルギー供給源として注目されているとともに、木材の需要が増大することで伐採と再造林が促されることから、本県の



ポイラー一点火

豊かな森林資源を活用していくやまがた森林ノミックスの先駆事例として庄内地域の林業・木材産業の活性化に寄与するものと期待されています。



取材を受ける東泉氏

鶴岡バイオマス発電所の概要
事業者 (株)鶴岡バイオマス

(株)トーセン、出羽庄内森林組合、温海町森林組合、北庄内森林組合、羽越木材協同組合
出資

・事業費 十二億四千万円

・発電出力 一、九九五kW

(一、六一〇kW売電)

・燃料供給 羽越木材協同組合

〔県林業振興課〕

「朝日相扶の森」と「草木の森」絆の森活動

はじめに

県では、「やまがた緑環境税」を活用し、県民や企業の皆様に森づくりや自然環境の保全活動に取り組んでいただくため、平成二十一年度から「やまがた絆の森プロジェクト」を推進しています。

このやまがた絆の森は、現在、置賜地区に六地区が設定され、九社が活動を行っています。今回は(株)朝日相扶製作所と国土防災技術(株)の二社の活動を御紹介します。

◆朝日相扶の森

(株)朝日相扶製作所は、平成二十五年二月に県、白鷹町と「やまがた絆の森協定」を締結し、白鷹町ふるさと森林公園で森づくり活動に取り組んでいます。

この活動は今年で三年目になり、今年度は五月と十一月の二回活動を実施し、五月の活動ではブナ植林地の下刈と協定内森林の樹木への樹名板の設置、森林散策、十一月の活動では同じくブナ植林地の下刈と公園内の清掃活動及び、チェーンソーアートの見学を行いました。



森林散策

今年の二回の活動は天候にも恵まれ、男性は下刈に汗を流し、女性や社員の家族達は、樹名板の設置や森林散策を楽しみ、活動の後は社員家族でのバーベキューや芋煮会、また最後に、パレス松風の温泉で森づくり活動の心地よい疲れを癒し、社員や家族同士の絆も深めました。



ブナ植栽地の下刈

◆草木の森

国土防災技術(株)は、平成二十二年七月に県、公益財団法人山形県林業公社と「やまがた絆の森協定」を締結し、南陽市宮内の公社造林地での森づくり活動に取り組んでおります。今年で六年目になりますが、これまで協定区域内の裸地に、周囲の雑木林から採取した山採苗を植栽する取り組みを行い、毎年植栽した箇所の下刈、施肥を行ってきました。



植樹活動

今年度は十月に二日間にわたり森づくり活動を行い、一日目は新規植栽箇所の準備やくず防除等の現地作業及び室内実習を行い、二日目にはブナ、カラマツ、イタヤカエデ、コナラの植栽や植栽地の下刈、ケーピンエースやラウンドアップを使用したクズ防除を行いました。

そして、最後には恒例の美味しい芋煮会で締め括り、参加者は充実した笑顔で活動を終えました。

この草木の森は、地元の皆さんにも支えられています。それはこれまで継続してきた、森づくり活動に対する積極的な姿勢が、しっかりと伝わっているためです。

今後も草木の森は、企業の森づくりへの熱意の下、より緑豊かな森へと変遷していくことでしょう。



くずの防除作業

◆おわりに

県では、今後とも森づくりを通して企業と地域の交流が深まり、森づくりの和が広がるよう、これからも支援してまいります。

〔置賜総合支庁森林整備課〕



みどりのページ

新庄市立北辰小学校みどりの少年団が 全国緑の少年団活動発表大会で 「みどりの奨励賞」を受賞

第三十九回全国育樹祭併催行事として、全国緑の少年団活動発表大会が、平成二十七年十月十日岐阜県池田町中央公民館において開催されました。全国から応募した中から、我が県代表の新庄市北辰小学校みどりの少年団が選ばれ、武田理来さんと杳澤柚月さんが「ひろがれ けやきの森プロジェクト」の題目で、校庭のけやきの森からスタートした水質・生態調査から保護活動について発表し、ふるさとを大切にしていることを誓いました。翌日の全国育樹



元気に発表する北辰小みどりの少年団員

祭では、地元の少年団が育てたけやきの苗を受領するなど、緑の少年団としての役割を果たしました。これからは北辰小学校みどりの少年団の活躍をお祈りいたします。最後に、理来さん・柚月さんご苦労様でした。



みどりの奨励賞を受賞

森の教室「どんぐりくんと 森の仲間たち」を開催

◆期日・会場

十一月十一日（水）

西荒瀬保育園（酒田市）

十一月十二日（木）

小百合第二保育園（天童市）

◆主催

（公社）国土緑化推進機構

（公財）山形県みどり推進機構

◆特別協力

株式会社ファミリーマート

◆開催概要

保育園や幼稚園の園児を対象に、森の楽しさを伝え、学ぶ「森の教室」が三年目を迎え、今年は県内二会場で開催されました。

この森の教室は、国土緑化推進機構が株式会社ファミリーマートの協力を得て、これまで九十回ほど全国各地で開催してきました。今回山形県で開催される森の教室は、来年庄内で開催される「第三十六回全国豊かな海づくり大会」の記念行事として、森と川から海へとつながる生命のリレーをテーマに開催するもので、緑の募金キャラクターのどんぐりくんとファミリーマートの環境イメージキャラクターエコロンから、「海が豊かなのは森林があるから」などと学び、最後に園児たちが、園内の森等から拾ったどんぐりの種をプランターに播きました。数年後には、園内の森や地元の山に里帰りすることになっています。大切に育ててくださいね。

緑の少年団出前教室を開催

◆期日

平成二十七年十月二十七日（火）

◆場所

飯豊町立添川小学校の学校林

◆参加者

いいで緑の少年団員 二十九名

◆開催概要

出前教室も三年目となった今年度は、学校林をフィールドに森林整備活動を行いました。始めに、スズメバチに遭遇した場合の対処法を学び、講師の先生から施肥について説明していただき、二人一組になり桜の木に施肥を行いました。また、下刈り



どんぐりくんとエコロンによる森づくりキャラクターショー



みどりのページ

(公財)山形県みどり

推進機構



施肥を行う少年団員「元気に育ってね！」

や枝打ちはどうして必要なのか？を
考えながら、講師の先生から鎌の取
り扱い方の注意事項や下刈り・枝打
ちの手順の説明を受けた後、みんな
でどの枝を落とせばよいのか相談し
合い、ノコギリで枝を落としていき
ました。中には、来年まで落とすか
どうか検討するグループなどもあり
来年の課題もできました。最後に、
アオダモの枝を水に入れ、アオダモ
に含まれる蛍光物質によって水の色
が変化する様子を見ることができ、
自然の不思議さを体験することがで
きました。

緑の募金に御協力いただいた企業・団体のみなさま (H27. 10. 1~11. 30)

(山形県みどり推進機構取扱い分)

(株)アーレスティ山形、アイ・エム・マムロ(株)、(株)アイタ工業、(株)青葉堂印刷、青山建設(株)、旭自動車(株)、阿部建設(株)、(株)阿部林業、(株)伊藤熱処理、衣袋建設(株)、(株)イヨテクニカル、(株)ウンノハウス、(株)エコス米沢、(株)エスアンドケイ、S W S 東日本(株)、(株)エスパワー、N T T 山形グループ、(株)エム・エス・アイ、エムテックスマツムラ(株)、(株)王祇建設、(株)大風印刷、大場印刷(株)、岡崎医療(株)、(株)小川建設、置賜クリーン設備(株)、(株)沖田木材産業、(株)小澤商店、オビスン(株)、(株)柿崎建設工業、(株)春日測量設計、(株)カルイ、共和防災建設(株)、(株)クネット東北、(株)クリーンシステム、黒澤建設工業(株)、(株)ケンコン、(有)県南エコサービス、(株)幸輪、小林防護工事(株)、(株)小森マシナリー、蔵王食品(株)、(株)寒河江測量設計事務所、(有)佐藤測量設計事務所、三協コンサルタント(株)、(株)三洋、三和油脂(株)、J A 全農北日本くみあい飼料(株)、(株)シェルター、(有)ジョイランチ、庄内環境衛生事業(株)、庄内環境緑化事業協同組合、(株)庄内銀行、庄内たがわ農業協同組合、新庄もがみライオンズクラブ、森林総合研究所山形水源林整備事務所、須川工業(株)、(株)スペースパーツ山形、(株)セイノコーポレーション、(株)成和技術、大金電子工業(株)、(株)ダイシン、(株)大和、大和工営(株)、(株)高橋組、(株)タカハシ電工、(株)タカハタ電子、(株)滝の湯ホテル、立川ロータリークラブ、田宮印刷(株)、(株)千歳建設、中央公害清掃(株)、(有)ツチヤクリーン、角田商事(株)、テルス(株)、(有)天童工業、(株)天童木工、(株)東北技研、東北工産、東北興産(株)、東北シルク(株)、東北電機鉄工(株)山形支店、(株)東北緑地造苑、十和建设(株)、(株)トプコン山形、内外緑化(株)、(株)ニクニ白鷹、(有)西長合金铸造所、日東ベスト(株)、日本地下水開発(株)、(株)沼澤工務店、(株)畑山、ヒミヤ石油工機(株)、(有)昆龍レンタカー、(株)ピンテック、ブレンスタッフ(株)、本間利雄設計事務所、マイクロソリューション(株)、(株)マツダ建設、(有)丸吉製作所、(有)丸三製材所、マルミツ産業(株)、丸和熱処理(株)山形工場、水澤化学工業(株)水沢工場、三ツ和工業(株)山形工場、明立工業(株)、(株)モリヤ、(株)モンテディオ山形、八千代田精密(株)、山形朝日(株)、山形ウッドエネルギー、山形オートリサイクルセンター(株)、山形ガス(株)、山形環境保全協同組合、(株)山形銀行南山形支店、山形空港ビル(株)、山形健康管理センター、やまがた健康推進機構、山形県職業能力開発協会、山形建設(株)、山形県土地改良建設協会、山形県理化学分析センター、山形国際ホテル、山形酸素(株)米沢営業所、山形食品(株)、(株)山形新聞社、山形大光(株)、山形中央観光(株)、(株)山形テレビ、山形電子(株)、山形日紅(株)、山形東ロータリークラブ、(株)山形ビルサービス、山形放送(株)、山形南ロータリークラブ、(株)山形メイコー、山形木造住宅プレカットシステム、(株)山口工務店、(有)山口製材所、(株)山南自動車、(株)ヤマムラ、(株)山本製作所、ワイエム技研(株)、渡辺印刷、(株)渡部砂利工業所、(株)渡辺商店

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました。

燃料用広葉樹材の乾燥特性

はじめに

燃料用薪材の含水率【湿量基準】は、二〇%未満が燃焼に適するといわれますが、樹種や伐採時期、乾燥方法により異なるため、効果的に乾燥する技術が必要です。そこで、身近にある広葉樹材を対象に、樹種別に自然乾燥試験を、季節別に初期含水率試験を実施したので報告します。

◆材料と方法

試験地は、森林研究研修センター（標高一四五m、二〇一四年降水量一四三五mm）施設内の軒先において、地上高約五〇cmの桝木上に試験材を置き、透明のナミイタにより雨水が当たらないように設定しました。

試験材は、寒河江市、山辺町、西川町内の身近な山林等からアズキナシ、ウワミズザクラ、ナナカマド、ヤマハンノキ、オノエヤナギ、コナラ、トチノキ、ニセアカシアの八種について、薪利用を想定して胸高直径約十cmの樹木を探索、初期含水率測定用の厚さ約二cmの円盤を採取し、残りの材で長さ三十cm及び四十五cmの二種類の試験材を各三本ずつ作製

しました。また、円盤採取は秋季（二〇一四年十月）、春季（二〇一五年四月）にも行い、季節による初期含水率の違いを比較しました。

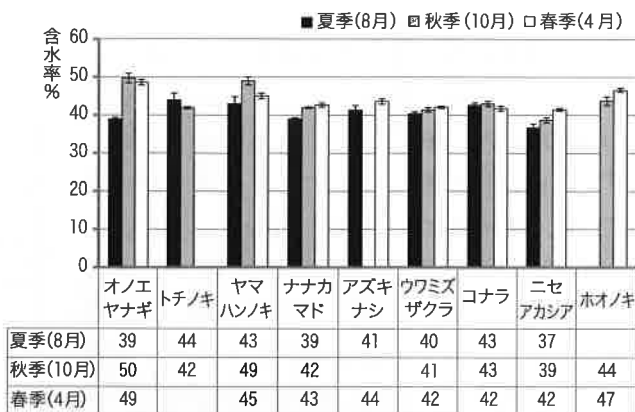
自然乾燥は、採取日二〇一四年八月中旬から始め、十一月二十六日までの約三カ月半実施し、乾燥期間は九八日〜一〇五日となりました。

含水率は、採取時に初期含水率を、その後概ね二〇日置きに重量を測定し、計算式 $(W_1 - W_0) / W_1$ により求めました【 (W_0) 全乾重量、 (W_1) 測定時の重量】。重量測定は採取日から十一月二十六日までの間に計六回実施しました。

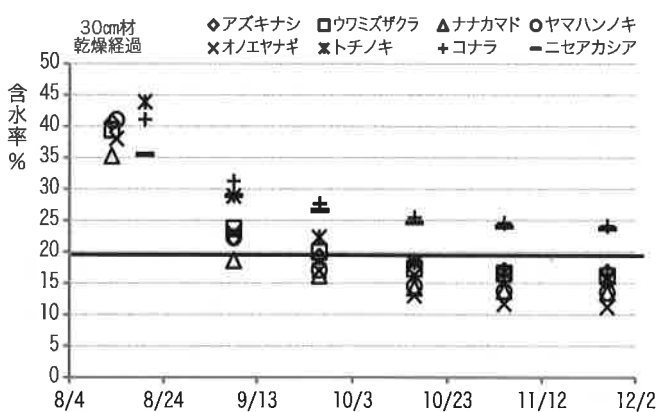
◆結果と考察

① 自然乾燥後の含水率は、材長三十cmのオノエヤナギ、ヤマハンノキ、ナナカマド、トチノキ、ウワミズザクラ、アズキナシの六種で燃焼に適する二〇%未満に低下しました。ニセアカシア、コナラは二四%でやや高く、材は短い方が早く乾燥しました。（図一）

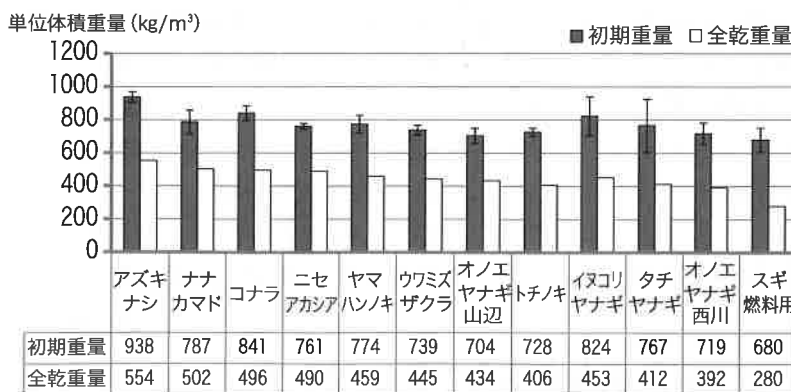
② 季節別の初期含水率は、オノエヤナギ、ヤマハンノキ、ナナカマド、ニセアカシアは夏季が低く、ト



図一 採取季節別の初期含水率



図二 自然乾燥に伴う含水率の低下経過



図三 樹種別単位体積重量(初期、全乾)

チノキは秋季に低いことが分かりました。（図一）
③ 試験の結果、樹種別に全乾単位体積重量が明らかとなり、寸法と重量の測定により乾燥状況を推定することが可能となりました。（図一）

これらの知見を効率的な薪材乾燥に活用していただければ幸いです。

〔森林研究研修センター〕

森の人紹介

地域の森林環境教育をけん引

佐藤 定四郎さん



天童市で、自然教室の開催や緑の少年団活動の指導等を通じ、地域の森林環境教育をけん引している佐藤定四郎さんを御紹介します。

「希少野生植物の研究は、仕事であり趣味です」と笑顔で語る佐藤さんは、理科教員の深い専門知識を活かし、天童全域の野生植物について探究されていますが、昭和三十三年に初めて赴任した天童中学校で、生徒達といっしょにジャガラモガラの植生を調査し、万葉集にも歌われる「ムラサキ」を発見したそうです。ムラサキの生育はジャガラモガラの環境に由来するものであり、その不思議さに感動し地域住民の方達と一緒に現在も研究されています。また、「天童市野草と親しむ会」の創設から係わり、現在では会長として幅広い年代の方々と山野草の美しさを共感し楽しんでいます。

佐藤さんの活動フィールドは、ジャガラモガラ（津山）のほか、水晶山（山口）や、天童市絆の森林（田麦野）があり、それぞれで御自身

が研究された植物のことを詳しく解りやすく、まるで絵本の読み聞かせの様にお話し下さいます。教員を退職されてからは、天童市緑の少年団の指導者としても活躍されていて、児童の間では「定四郎先生」として有名です。少年団のある学校の校庭樹には、御自身が手掛けた樹名板が下がっています。

「少年団活動を通じて心から感動すること、大人になっても郷土の環境を大切にすることが、大切にする」と指導に力を注いでいました。



佐藤さんの指導中の少年団の緑

このような活動が評価され、今年度の村山地域森林・林業功労者として森の感謝祭で表彰された「定四郎先生」の御活躍を、今後とも期待しております。

〔村山総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

地元産スギを無駄なく活用

最上町 北村建具店
北村 昭夫さん



元来ものづくりが好きだった北村さんは、中学卒業と同時に建具

づくりの修行を初め、二五歳の時に北村建具店を創業、現在も息子の靖さんとともに現役で建具づくりに励んでいます。地元の仕事は少なくなってきましたが、震災以降宮城、福島等の復興住宅の需要が増え、とても忙しくなっています。南相馬市や岩沼市等遠くへの出張は、主に息子の靖さんが受け持ちますが、宮城県北部等比較的近いところは、昭夫さんも建具の取り付けや修理などに出向きます。

これまで一貫してこだわってきたのは、材料を一切むだにしない姿勢です。長い年月をかけて育てられてきた木材を、一〇〇%生活に役立てようという考えから、地元産のスギ間伐材等の小径材から採れた材料を

張り合わせ、十年間変形しないことを確認したうえで、大きいものでは建具材、ポスターのパネル、ソバ打ちの台、小さいものでは額縁、名刺入れ、しおり等のおみやげ品まで制作しています。「小物は注文数が多

いと大変……」との北村さんの弁ですが、地元の木の有効活用に取組むその仕事ぶりは、町や県からも高い信頼を得ており、最上総合支庁でも毎年「全国キノコ食味&形のコンテスト in 鮭川村」の「山形県知事賞」と「最上総合支庁長賞」の賞状の額縁を依頼しています。被災地の住宅再建も未だ道半ば、当面多忙な日々が続くと思いますが、地元のスギを使った温もりあふれる額縁も末長く作り続けていただきたいと思

います。（北村昭夫さん 昭和一四年生まれ 七六歳）

張り合わせ、十年間変形しないことを確認したうえで、大きいものでは建具材、ポスターのパネル、ソバ打ちの台、小さいものでは額縁、名刺入れ、しおり等のおみやげ品まで制作しています。「小物は注文数が多



北村さん制作中の地元産のスギ額縁

〔最上総合支庁森林整備課〕

みどりの循環体験イベント

間伐体験会&森林のエネルギー見学会

県では今年度多くの県民の皆様にも、「森を守り、育て、暮らしに活かす」みどりの循環を気軽に体験できるイベントを開催しています。

今回は、NPO法人環境ネットやまがたとの共催により開催した間伐体験会とペレット工場や家庭で使われているペレットボイラーの見学会について紹介します。

◆間伐体験会

間伐体験会は、十月十二日（月）と十一月三日（火）の両日、それぞれ五十七名、三十七名の参加を得て開催しました。

会場は、山形市八森の約二十年生のスギ林と広葉樹の里山で、講師は樹木医の山田寛爾さんです。



のこぎりを使っての作業



伐採作業に汗を流した後で記念撮影

はじめに講師から、山形市八森の森の成り立ちや森の手入れについて話がありました。子どもたちは、講師の「森でいろんな体験をし、どんな森にしたら良いか感じながら作業をしましょう」とのかけ声で、ヘルメットをかぶり、のこぎりを腰に巻き、森の中に入って行きました。スギや太い広葉樹は大人がチェーンソーで、細い広葉樹は子どもがのこぎりで、伐採と玉切りなどを行いました。子どもたちのほとんどが初めての経

験で、使い方に注意を払いながら体験を行いました。作業後は、人が森に手をかけることにより、明るい光が差し込むようになり、「森がきれいになって良かったね」などの声が聞かれました。

この間伐体験で伐採されたスギやクリ、ミズキなどは、ペレット工場に運搬し、ペレットの原料として利用することにしており、参加者全員でトラックへの積み込み作業も行いました。

◆森林のエネルギー見学会

十一月三日の間伐体験会に引き続き、午後から寒河江市中央工業団地の山形ウッドエネルギーに移動し、ペレット工場を見学しました。工場では、山形ウッドエネルギーの阿部豊さんから、ペレットの製造工程や、山積みに集積されたペレット原料の調達方法などの説明を受け、午前中



伐採した木はペレット工場へ運搬



ペレット工場見学

に伐採したようなスギの間伐材や広葉樹材がエネルギーとして利用されていることを学びました。事務所に設置されているペレットストーブでは、暖かさと火が燃える様子を体験しました。

その後、山形市銅町に移動し、家庭で使用されているペレットボイラーを見学し、実際の使用状況などをお聞きしました。

◆おわりに

参加者は、今回の体験会と見学会を通して、スギの間伐材や広葉樹材がペレットの原料となり、森林のエネルギーとしてストーブやボイラーの燃料として使われていることに改めて理解を深めていました。

〔県みどり自然課〕

大江町の魅力ある豊かな森林をつくるプロジェクト！ 「大江町美しい森林づくり協議会」の活動紹介

◆はじめに

大江町においては、平成二十一年度に設立された「大江町美しい森林づくり協議会」が中心となって、西山杉、薪、山菜等の地域資源を積極的に活用して雇用と定住を生む、大江町独自のユニークな仕組みづくりを行っています。

現在、大江町では、県と連携して「やまがた森林ノミクス」を推進するため、様々な林業関係の施策を推進しており、協議会の取組みは、その中心となるもので、川上から川下に至る様々な団体が連携して新たな事業展開を目指しています。

◆新たな組織体制

協議会には、地域の林業グループ、森林組合、素材生産者からなる「生産部会」と、製材業者、大工・工務店、設計・建築、商工会からなる「流通・活用部会」が組織されており、今年度は、①自伐林家経営モデルの構築、②天然乾燥材生産と販売の仕組みづくり、③山菜等の利活用推進プロジェクトの推進を三本の柱にした活動を展開しています。

具体的には、来年度からの本格的な事業展開を目指して、ワークショップの開催や、先進地視察、現地検討会等を実施しながら、次年度以降の実践計画の策定等を行っています。

◆今年度の取組み

七月には、生産部会、流通活用部会をそれぞれ開催し、施業の集約化、天然乾燥材の生産、西山材（薪）木材流通などをテーマにワークショップを開催しました。



ワークショップの開催状況

八月には、両部会の合同研修会を実施し、川下側の要望に応えた生産

現場の見学、川上側の要望に応えた住宅等の活用現場の見学、そして両部会の意見交換会を実施しました。九月上旬には、生産部会の下に効率的な森林整備を支える組織として実践グループを立ち上げました。

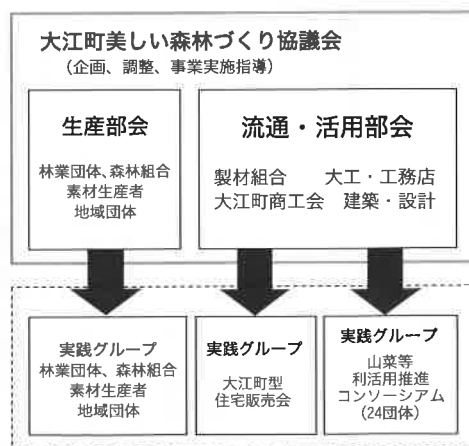
九月下旬には、福島県の企業が経営する東北最大級の「天然乾燥材ストックヤード」を視察し、木材の乾燥から出荷までの工程、取引先等の手法を学ぶとともに、地域産材を活用し、大工職人が主体の住宅建築企業（東日本で最大二百棟の販売規模を持つ）の先進地視察研修会を開催しました。



天然乾燥施設の視察

さらに、組織体制の見直しにおいて、流通・活用部会のもとに、大江

町型住宅販売会や、今年度組織化した「山菜等利活用推進コンソーシアム」を、連携団体としての実践グループと位置づけ、川下の活動を本格展開する準備を行いました。



◆今後の展開

十月以降は、具体的な目標の取りまとめを行いながら、国の直接支援制度（山村活性化支援交付金）等を活用した事業化の検討を行っており、現在、交付申請に向け東北農政局と事前調整を実施しております。

来年度以降は、川上から川下に至る幅広い団体が参画した多様な事業展開が予定されており大江町における「森林ノミクス」のさらなる推進が期待されます。

〔村山総合支庁森林整備課〕

北村山地域の地域産材活用

人工乾燥機の導入と 地域材を活用した家づくり

◆はじめに

この度、株式会社石川製材所（村山市）が、平成二十七年産山形県森林整備促進・林業等再生事業を活用し、新たに人工乾燥機を導入しました。同社の地域産材の利用推進に向けた取り組みについてご紹介します。

◆木材乾燥機の導入

同社は、社長である石川敏雄氏が

一級建築士の資格を有しており、製材から販売、住宅建築まで一貫体制

で手掛けています。生産した製品は自社で手掛ける住宅に使用するほか、地域の工務店等に販売しています。

今回導入した機械は東北通商株式会社製の中温乾燥機（機内容量六立方）で、温水バイオマスボイラを併設しています。同社ではこれまで



導入した乾燥機とバイオマスボイラ



乾燥した製品

人工乾燥機を所有しておらず、木材の乾燥には天然乾燥で対応してきました。しかし、天然乾燥では乾燥に長い期間を要するため、急な需要には他社製品に頼る場合もありました。今回、より多くの地域材を使用した製品を生産したいとの考えから、乾燥機導入を決めました。まだ稼働して間もないですが、安定的に乾燥材の生産ができており、今後も乾燥機への期待が高まっているとのこと

です。また、従来、丸太から端材や樹皮は料金を支払って処分していました。バイオマスボイラ導入により燃料として活用することができ、ランニングコストの削減にもつながっています。

◆地域材を活用した家づくり

同社が手掛ける住宅は年間平均四〜五棟前後。「地元の材が地元の環境に適している」という考えから、住宅には、極力、自社製品を使用しています。お客様の要望にもよりますが、できるだけ建築資材に天然素材を使用し、人にやさしい家づくりを心掛けていくとのこと。石川社長は、「木をできるだけ「現し」で使用することで、木のぬくもりや、やさしさが伝わる家づくりを行っている

きたい」と話しています。

今年、一級建築士として建設会社で働いていた、石川社長の御長男が入社しました。営業面、住宅建築の現場管理での体制を強化し、地域に根差した家づくりを進めていきたいとのこと。

◆おわりに

同社では、大手ハウスメーカーの参入など仕事の獲得には厳しい面もありますが、ニーズにあった住宅を提供することで広く活路を見出したこととしており、今回の人工乾燥機導入をきっかけとして、地域材の更なる活用推進が期待されます。

〔村山総合支庁森林整備課〕



同社が手掛けた住宅

山形が生んだ匠と家づくりを語る

地域材を活用する家づくり講演会の開催

◆はじめに

村山市出身で、テレビの住宅改革番組でも活躍する建築家「瀬野和広」氏を講師に、地域材を活用した家づくりの良さを提案してもらおう講演会を、十一月八日（日）山形市（丸八やたら漬本店）で開催しました。

今回は、県が推進する「やまがた森林ノミクス」を応援するセミナーとして地元建築家をつくる「BDAC（ビーダック）山形」が主催して、村山地域林業振興協議会とやまがた公益の森づくり支援センターが後援しての開催となりました。

◆西山杉の里を訪ねて

午前中、講演会に先立ち、瀬野先生を含めたビーダック山形のメンバーとで、大江町の西山杉の里を訪ねる見学会を開催しました。

地域の代表的な西山杉の美林の状況を見ながら、それを育てている林業士の方から、杉林の管理・保全等について教えていただきました。

さらに、地域の西山杉を天然乾燥している製材所を訪問し、西山杉の製材品の見学を行いました。



西山杉の美林での記念写真

◆講演会の開催

午後からの講演会は二部構成で行われました。第一部は、「地域材を活用する家づくり」を演題に、約五十名の方が参加して開催されました。

講演では、瀬野先生が自ら設計した木造建築物の写真を見せながら、木造建築に対する理念や、設計の依頼を受けた時に、施主を森や製材所に案内する取り組み、さらには午前中の見学会を受け、県産材の西山杉を紹介して、地元には外国産の木を使わなくても家を建てられる十分な環

境にあることなどを紹介してもらいました。

第二部は「カフェタイム」ということで、お茶や漬物をいただきながら、家づくりや木造建築について、講師の瀬野先生と楽しいおしゃべりタイムを満喫してもらいました。

有名な建築士と直にお話をする機会がこれまでなかったということ、参加者の皆様には大変好評でした。

雪国をはじめ各地域に根ざす この国の新しい住まいづくり提案

- ・住まいづくりは町づくり。家が使い続けられることで、まちも育つ。
- ・このまち、この場所で「世代循環」しながら暮らし続けられる住まいづくりを目指します。

豊富な県産材の地産地消による持続 循環型「森と社会」づくりを目指します。

1. まずは屋台骨づくり（県産材のフル活用）
2. 当たり前のパッシブ家づくり（自然エネルギーのフル活用）
3. 新しい床座の暮らしづくり（先人・暮らしの知恵フル活用）

◆BDAC山形の活動

「BDAC山形」は、豊富な県産材の地産地消による地域循環型の「森と社会」づくりを目指し、著名な建築家や、実績のある地域工務店で構成するトータルハウジング産業グループです。

昨年度から、地域材住宅建築の広告塔として、県が推進する「森林ノミクス」に協賛している旨を公表していただき、沢山の家づくりセミナー等を実施しております。

また、今年度は新たに「山形県産材活用「世代循環」型の住まいづくり」と題して、県産木材を十分に使い自然環境に配慮しながら、世代を超えた利便性を追求する住まいづくりの提案をしております。コンセプトは、県産材のフル活用、自然エネルギーのフル活用、先人の暮らしの知恵のフル活用で、新しい木づかいの提案となっています。

◆今後に向けて

村山総合支庁においては、都市部の家づくりネットワークと連携して、地域産材を十分に活用した家づくりについて、沢山の県民の方が参加していただける楽しい家づくりセミナーや研修会等を開催して参りたいと考えています。

※「瀬野和広氏」は、村山市出身の建築家で、二〇一二年にはテレビ朝日系列で放送されたテレビ番組の「大改造!! 劇的ビフォーアフター大賞」を受賞しました。

〔村山総合支庁森林整備課〕

もがみ地域材利活用研究会の開催について

概要

最上地域は、森林資源が豊富で、木材加工について高い技術を有する会社や人材等が存在し、林業・木材産業等が盛んな地域です。

また、新庄市では来年の操業を指して大型集成材工場の整備が進んでいて、今後は木材需給量の大幅な増加が見込まれております。

これらの状況に対応し、木材の有効活用による地域産業の振興及び木に囲まれた豊かな暮らしの実現を図ること等をねらいとして、地域材の新たな利活用について検討を行う研究会を十月九日に開催しました。

当日は、林業・製材業のほか、建築・家具や木工関係等の地域材の利用者及び行政関係者等二四名が参加し、意見交換等を行いました。

◆基調講演

山形県木材産業協同組合の大隅専務理事から、「暮らしの中に木を使おう！やまがたの木に包まれて」と題し、非住宅分野での木材需要の拡大、木材の高品質化の必要性等について、基調講演をしていただきました。

◆意見交換

参加者からは、公共施設やJR等の施設への地域



研究会状況

材の使用拡大

- ・ 広葉樹の市場づくり
- ・ プレカット工場の整備
- ・ CLT（直交集成板）への関心
- ・ A材の利用拡大、建築資材としての利用促進

など、地域材の利活用について幅広くさまざまな意見が出されました。今後はテーマ等を絞りながら研究会を開催し、検討を進めていくことになりました。

◆おわりに

引き続き関係者と連携しながら、地域材の新たな利活用策の検討・実施について取組みを行っていきたいと考えております。

〔最上総合支庁森林整備課〕

最上地域原木ナメコ栽培研修会を開催

◆はじめに

最上地域の原木ナメコは、真室川町を中心に栽培が行われており、全国でも有数の生産地となっています。

しかし、近年は生産者の高齢化や担い手不足などにより、年々生産量が減少している状況にあります。

そこで、最上地域の原木ナメコ生産量の増大を図るため、十月二十二日に真室川町釜淵地区を会場に原木ナメコ栽培研修会を開催しました。当日は真室川町内の生産者を中心に十四名の参加がありました。



室内研修

◆室内研修

きのこアドバイザーの斎藤良次氏を講師に、原木ナメコ栽培の基礎知識を

中心に伐採時期や仮伏せの重要性、散水装置の事例などについて説明をいただきました。参加者からは、同じ場所は何回も伏せ込む場合の方法などについて質問がありました。

◆現地研修

八敷代里山活用研究会の佐藤儀一氏より原木ナメコ栽培の取組み方法について説明をいただき、参加者からは、伐採時期や仮伏せ方法などの質問がありました。



現地研修

◆おわりに

今後も、原木ナメコ栽培を振興し、生産量の増大と品質向上を図るための研修会を開催し、森林所有者等の所得向上を図りたいと考えております。

〔最上総合支庁森林整備課〕

荒尾沢地すべり対策工事概成後の状況

◆これまでの地すべり対策工事

平成二十三年五月二十四日、飯豊町大字小白川地内において地すべりが発生し、流出した土砂は林道天狗山線を寸断、下流の荒尾沢まで達しました。置賜総合支庁では、平成二十三年度災害関連緊急地すべり防止事業を活用して斜面の不安定土砂を取り除く排土工、切土法面の安定を図る簡易のり砕工、土留工、地すべりの原因の地下水を取り除く集水井工を実施しました。

平成二十五年三月からは地すべり防止事業として山腹斜面の排土工、



被災直後に撮影した空中写真 (H23. 5月)

土留工、伏工を施工し、置賜地域ではその間二年連続の豪雨災害もありましたが、平成二十六年十二月に対策工は無事完成しました。

平成二十三年被災の地すべり対策工事はおよそ丸三年、総事業費約四億七千万の工事を経て、現在は植生も回復しており、林道天狗山線も安全に通行することができるようになりました。

◆現在の様子について

今年度は工事の効果を確認するため、地すべりの動態を観測する調査業務を委託しました。その結果、融雪期は地下水位の上昇はあったものの、パイプ歪み計の有意な変動はありませんでした。日雨量四十㎜以上の大雨が降った今年の七月には三年連続の豪雨災害になるのではと覚悟しましたが、この時も地すべりの変動はありませんでした。

今年度は比較的天候に恵まれ、現場近くの天狗山では登山イベントが開かれたり、林道沿いには天狗山のノボリが掲示されていたり、復旧した林道が活用されている様子がうかがえました。

◆まとめ

荒尾沢周辺は天狗山登山や山菜採り等で利用される自然豊かな土地です。今後とも安心して地域の活動や観光ができるよう地すべりの状況を観察していきたいと思えます。

〔置賜総合支庁森林整備課〕



H27. 10月 晴天の荒尾沢



H27. 7月
天狗山の様子

寒い冬にも、やっぱり「きのこ」!

きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。

きのこパワーで健康生活! “毎日食べよう山形きのこ”

山形県きのこ振興会

〒990-2339 山形市成沢西4-9-32 ☎023-688-8100



庄内森とみどりのフェスティバル2015

庄内の森林・林業や気の良さをPR!!

秋の恒例行事として定着した「庄内森とみどりのフェスティバル2015」が鶴岡・酒田の二会場で開催されました。

健全な森林づくりの必要性や地域産木材等の利活用について、地域の方々に広くPRするため、鶴岡会場は「つるおか大産業まつり」、酒田会場は「もつしえマルシェやまがた庄内農山漁食まつり」等との同時開催となりました。

また、同会場で森林に関する功勞者表彰も行いました。



丸太釣り競争

【鶴岡会場】

秋晴れの下、山伏によるホラ貝の合図で開場されました。緑の少年団育成功勞者表彰、上棟式の実演、銘木を加工した高級木工品や特用林産物の展示販売のほか、木の良さを身近に感じてもらう体験ブースでは、鶴岡バイオオマス発電のPRをはじめ、糸ノコ・木工教室、丸太釣り競争、丸太切り体験などを企画。使い慣れない道具を駆使して一品物を作り上げるなど、子供から大人まで多くの方々が楽しまれました。

- ・開催場所 鶴岡市小真木原公園
- ・開催日 十月十七日～十八日
- ・併催行事 山形県技能まつり、庄内フラワーショー等

【酒田会場】

酒田会場では、農山漁食まつりのほか、全国ねぎサミット、来年開催の全国豊かな海づくり大会を大きくPR。特別ゲストのさかなクン効果?もあり、来場者も多数となりました。開会式典後に、森林林業緑化功勞者表彰を行い、林業もすっかりPR。

緑化樹配布や椎茸プレゼントのほか、人気の丸太釣り競争、丸太切り体験のほか「海からの贈り物」として、飛鳥サザエやトビウオ出汁うどんをふるまって海のめぐみも堪能していただきました。

- ・開催場所 酒田市国体記念体育館
- ・開催日 十月三十一日～十一月二日
- ・併催行事 全国ねぎサミット、全国豊かな海づくり大会プレイベント

【緑の少年団育成功勞者の紹介】

この表彰は、緑を守り育てる活動を通じて、郷土愛や健康で心豊かな人間を育てていくことを目的とする「緑の少年団」の活動に支援・協力をを行った団体に対して表彰するものです。本年度、この賞を受賞された鶴岡市山五十川の山五十川玉杉保護会をご紹介します。

山五十川玉杉保護会
やまいちがわたましがきほごかい

本会は樹齢千五百年の国指定天然記念物「玉杉」の保全整備を行う団体で、玉杉を愛護する活動を展開しながら、周辺の森林を「学びの森」として環境整備し、温海緑の少年団の活動に学校と一体となって積極的に関わり、緑を愛し、緑を守り育てる活動を実施しました。

【森林林業緑化功勞者の紹介】

この表彰は、庄内地方の森林・林業の振興及び緑化推進に顕著な功績があった個人や団体を表彰するものです。本年度、この賞を受賞された酒田市長上青沢の遠田勝一氏をご紹介します。

遠田 勝一氏
えんた かちいち

酒田地区を中心に五十年にわたり林産業に従事され、集約化施業や林業機械の導入を積極的に進められ地域林業の活性化にご尽力されました。現在は、有限会社遠田林産の代表取締役会長、県木材産業協同組合の副理事長の要職を務められています。



緑の少年団育成功勞者表彰



森林林業緑化功勞者表彰

◇フェスティバルを通じ、地域の森林や木材を幅広い世代に身近に感じてもらい、地域林業の活性化に繋がれることを期待し、今後も引き続き開催したいと思います。

〔庄内総合支庁森林整備課〕



JR吹浦駅の東方約3kmに位置する劔龍山永泉寺は曹洞宗の古刹です。庭園にあるハリモミは、目通り周四・四五m、根周り二十二・一m、樹高三十二・五七mで、遊佐町指定の天然記念物になっていましたが、平成二十六年三月二十八日に県の天然記念物に指定されました。

〔山形県森林協会〕



(案内略図)



正面



公共木造施設 90

和合地区地域交流センター
友和館
朝日町和合

完成年度 平成26年度
延床面積 496.26㎡ 木材使用量 127.33㎡

構造 木造平屋建て

特徴 平成20年に地域内にある和合小学校の廃校が決定され、小学校に代わる地域の拠りどころとなる施設等の立案に7年間のワークショップにより、木造校舎であった旧和合小学校の体育館をイメージした木造施設として設計された。

地域づくりの活動拠点としての機能を充実させるため、軽食の提供も見据えたサロンと隣接する調理室、子ども達が図書室にも使えるロフト、大人数が集会できるホール、可動式の仕切りを設けた和室会議室を設置し、平成27年4月1日から供用され管理運営を和合連合区が行っている。



サロンからロフト・ホールを望む

お知らせ

平成二十八年年度
みどり環境公募事業
募集開始のお知らせ

やまがた緑環境税で支援する県民
参加の森づくり活動を募集します。

◆募集期間

平成二十八年一月四日(月)から
二月八日(月)まで

◆お問い合わせ

応募方法などの詳しい内容は最寄
りの総合支庁森林整備課森づくり推
進室までお問い合わせください。

○村山総合支庁森林整備課

(TEL 023162118248)

○最上総合支庁森林整備課

(TEL 023312911350)

○置賜総合支庁森林整備課

(TEL 023813519053)

○庄内総合支庁森林整備課

(TEL 023516615524)

※補助事業の実施については、平成
二十八年度の予算成立が前提とな
りますのでご了承願います。

〔県みどり自然課〕

森林やまがた 一六一号

「やまがた緑環境税」活用事業
「森づくりセミナー
& 活動報告会」
開催のお知らせ

県では、「やまがた緑環境税」を
活用した森づくり活動の成果を広く
県民の方々に発信するため、左記日
程により活動報告会を開催しますの
で、是非ご参加ください。(各会場
とも事前申込み不要・参加費無料)

◆開催内容

・森づくりに関する講演
・ボランティア団体や市町村、企業
などによる活動報告

◆お問い合わせ

各総合支庁森林整備課
森づくり推進室まで
〔県みどり自然課〕

地域	開催日時 〔12:30~15:45〕	〈講演会〉
最上	1/16(土) 新庄市民プラザ	宮城県インストラクター会 木村 健太郎氏
村山	1/17(日) 天童市総合福祉センター	宮城県インストラクター会 木村 健太郎氏
置賜	1/23(土) 高畠町文化ホールまほら	東北芸術工科大学 渡部 桂氏
庄内	1/30(土) 鶴岡市西郷地区 農林活性化センター	山形大学 林田 光祐氏

平成二十八年一月一日発行(隔月発行)
編集・発行 山形市松栄一丁目五番四一号
山形県森林協会

監修 山形県農林水産部
印刷所 渡辺印刷

定価 二八八円



総合電設業・一般廃棄物、産業廃棄物リサイクル事業
地域の暮らしをしっかりとバックアップしています。

(株) 渡会電気土木

代表取締役 渡会 昇

本社/鶴岡市下山添字一里塚36
☎0235-57-2454(代) FAX0235-57-2345

田代工場/鶴岡市田代字広瀬16-2
☎0235-57-4778(代) FAX0235-57-4786

営業所/酒田・山形・米沢・新庄・仙台・酒田共同火力工事事務所



—全国食用きのこ種菌協会会員—

〒999-7757
山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2



株式会社
河村式種菌研究所

お問い合わせは：電 話 0234(42)1122(代)
FAX 0234(42)1124

東北みちのくの珍味
トンビマイタケ菌床
まいたけ 樽木

庭先でも栽培
できます。



きのこ種菌 しいたけ・なめこ・ひらたけ・むぎたけ・かのかくりたけ他